TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

王が来られた これは、誰の肖像か？
マタイによる福音書 22:15-22

2022 年 7 月 30 日&31 日
余沢　武 牧師

I.　はじめに

こんにちは。ここまで、イエスが救世主としてどのようにエルサレムに入ったか、ユダヤの権力者がイエスをどうのように貶めようとしたか、そしてイエスが三つのたとえを用いてどのようにその行為を非難したかを見てきました。

今回は、ユダヤ人の権力者たち仕返しをしたことについてみていきます。その前に祈りましょう。

II.　これは、誰の肖像か
(1)　誠実と不誠実

まず聖句です。マタイ 22:15-17. 15 その頃、ファリサイ派の人々は出て行って、どのようにしてイエスの言葉尻を捕らえて、罠にかけようかと相談した。 16 そして、その弟子たちをヘロデ党の人々と一緒にイエスのところに遣わして尋ねさせた。「先生、私たちは、あなたが真実な方で、真理に基づいて神の道を教え、誰をもはばからない方だと知っています。人に分け隔てをなさらないからです。 17 ところで、どうお思いでしょうか、お答えください。皇帝に税金を納めるのは許されているでしょうか、いないでしょうか。」

非常に興味深い組み合わせです。「ファリサイ派」と「ヘロデ党」はイエスを「罠にかけよう」と「相談した」のです。そして「皇帝に税金を納める」べきかどうか尋ねて答えさせようとしました。

この「税金」はローマ人によってユダヤ人にのみ課されている「税」のことで、ローマ市民には課せられていないものでした。
ファリサイ派は神が王であると考えていることから、この「税」には不服でした。
ヘロデ党は、ローマとつながりが深いヘロデ一族を支持していたので、この税を支持していました。

この議題がまだまだユダヤ人の議論の的であった頃、「ユダヤの権力者たち」、中でもファリサイ派たちは妥協し、ローマへの税を徴収する責任を受け入れていました。その代わりにユダヤ人たちの神殿での礼拝をローマが許容してくれるだろうと望んでいたからです。

そして、イエスに言いました。「でも、あなたは違う。あなたは神を信じる誠実な方です。さあ、教えてください。皇帝に税金を納めるべきか否か？」

イエスが「否」と答えることを期待していたでしょう。救世主として、皆が期待するローマに代わる新しい王として来たのだから。そして「否」と答えたとたん、反逆の首謀者としてイエスをローマへ引き渡そうとヘロデ党が構えていました。
仮に「皇帝へ税金を納めよ」と答えれば、イエスを皇帝に代る「新しい王」と思っていた人たちはがっかりして、イエスを支持しなくなるだろう、とも考えました。

18-21 節: "18 イエスは彼らの悪意に気付いて言われた。「偽善者たち、なぜ、私を試そうとするのか。 19 税金に納める硬貨を見せなさい。」彼らがデナリオン銀貨を持って来ると、 20 イエスは、「これは、誰の肖像と銘か」と言われた。 21 彼らは、「皇帝のものです」と言った。

イエスは彼らを「偽善者たち」と呼びました。ギリシャ語の「hypocrite（偽善者）」はだれかのふりをする「役者」という意味があります。彼らは神を称えたいという気持ちからくる「他意のない質問」のふりをしていました。しかし実際は彼らの心は邪悪で、イエスを罠にはめようとしていたのです。

そこでイエスは「デナリオン銀貨」を持ってこさせます。このコインは税を払うために必要なものです。彼らが 1 枚持ってきました。そこでイエスは「誰の肖像と銘か」と尋ねます。

現在ではデナリオン銀貨は「偶像崇拝」のコインとしても知られています。それはコインに皇帝

の肖像と共に皇帝は「神の子である」と刻まれているからです。

つまり、彼らは神を称えたいだけ、というふりをしながら、神の神殿に「皇帝は神の子である」と刻まれた「偶像崇拝」コインを持ち込んでいたのです。

（2） 神と皇帝

21b-22節: “[21] すると、イエスは言われた。「では、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」 [22] 彼らはこれを聞いて驚き、イエスをその場に残して立ち去った。

そこでイエスは言いました。「皇帝のものは皇帝に返しなさい」コインの皇帝の肖像が意味するものは、
コインが皇帝に帰属するということ。「皇帝の権威の元」にあり、「皇帝」から全ての益がもたらされること。道路、水路、法律、帝国内を移動する自由、そして他国からの保護などです。これらのことから、皇帝に報いるものを差し出していたのです。敬意や、法への服従は神への罪にならない限りで、税金もその一つ。

クリスチャンは最も敬意を払い、法に従順で、税を納める市民であるべきなのはこういうところなのです。

話を戻すと、イエスは彼らの問いに答えたように見えます。しかし、さらに言葉をつづけました。より重要なことです。「神のものは神に返しなさい」

イエスによれば、「硬貨」は皇帝の肖像が刻まれているので、皇帝に対して義理があるのです。しかし、聖書によると私たちは神の似姿として造られたので、私たち自身が神に恩義があります。

私たちの中の神の似姿が示すことは、私たちが神に帰属するということ。「神の権威の元」にあり、すべては神から与えられている。食物、水、法、自由、保護、愛、いのちまでも。これらすべてにより、神に報いるものを神に差し出すのです。尊敬、神の律法への服従、神の性質を示すこと。つまり、愛、忍耐、謙遜と純粋さなど
この時代熱く議論されたのは、皇帝に税を納めるか否かでした。しかし、旧約聖書では統治者に税を納めることについてどう書かれていると思いますか。何も書いてないのです！ なぜか？ 神に捧げるべきことに焦点を合わせているからです。聖書が教えていることは、 心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。隣人を自分のように愛しなさい。—これこそが神の似姿であり、神の愛です。

しかし、後の新約聖書では「統治者への服従」は「神を愛すこと」や「隣人を愛すること」の現れであることも教えています。しかし、誠実である人を陥れようとすることは、「神を愛すること」でも「隣人を愛すること」でもありません。

議論していたのは、聖書で明確には書かれていない事柄でしたが、はっきりと命じられていることは無視していたのです。しかも、神を敬っているつもりだったのです。
同じように、私たちも、教会のミニストリーや活動などで、聖書に明確に書かれていないことで激しく議論し、神が明確に望んでいること、つまり神の似姿や神の愛を捧げそこないます。神の愛、謙虚さ、忍耐、他者への純粋さなどを示すことです。

（3） まとめ

イエスは言いました。「では、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」つまり、「神の似姿、神の愛、神のご性質を示せ」ということです。これは簡単ではありません。

ときどき、日本の特色についての記事を目にすることがあります。日本の学校では生徒たちが教室の掃除をすることが、よく挙げられます。

ただ、その実態と言えば、生徒が教室を掃除するものだとされてはいますが、多くはまじめにやっていません。特に年長になるにつれて。ただ、集まっておしゃべりしていて、まじめに取り組んでいる生徒は数人なのです。

なぜわかるのか？ わたしはそのまじめな生徒の一人だったんです。ほかの生徒がおしゃべりしている間、掃除をしていたのです。掃除中に話しかけられても、無視して黙ってムカついた態度をとっていました。心の中では、自分のほうがえらいと自負していたのです。

でも、そうでしょうか？ イエスに言わせれば「ぜんぜん！」です。 どうして？ そう、これは学校に対して義理を果たしただけでした。神に返すものはなかったのです。愛も、謙虚さも忍耐もなかった。

イエスは言いました。皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。

以前の職場での話ですが、ある時、男の子がきて道に迷ったと言いました。帰り道がわからないのだそうです。帰り道を探すのを手伝おうとしました。すると、上司に仕事中だからと叱られました。

上司の方を見ましたが、そのまま男の子の相手をしました。良いことをしていると思っていたのです。どうです？ そうですよね。その子に対して義理を果たしましたが、ただ、神には義理を返していません。神の似姿を。神の愛や忍耐、謙虚さを上司に示しそこなったのです。

イエスは言いました。 皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。

私がクリスチャンになりたての頃、TBC には大きな説教台がありました。牧師の方針で何があってもステージの中央から説教台は動かさず、それでここが神の言葉を伝える場所だということをみんなが常に意識できるようにしていました。それは良いことでした。

しかし、土曜日に子供たち用の特別なイベントを行うことがあり、説教台があると子供の姿が見えない事に気がつきました。そこで説教台を動かしていいか聞きました。答えは「だめ」でした。受け入れはしましたが、内心では、不満を感じ批判しました。

自分のことは神に仕えようと最善を尽くしている善い奉仕者だと思っていました。そうだったでしょうか？ そうではありましたが、子供達に対して義理を返しただけで、神に義理は返していませんでした。神の似姿であることです。愛も謙遜も忍耐も示しそこないました。

私たちは、あらゆる良いことを家庭なり、職場なり、学校なり、教会なりでやろうと忙しくし、自分を良く思うことがあるかもしれません。しかし、一番大切なことを怠っています。 イエスは言いました。皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。

質問です。私たちにできるでしょうか？ 正直に言えば「できない」です。だからこそ、イエスが来たのです。
罪、私たちが善を行えないことのため、代わりに「神の似姿」を示すために、十字架の死で償いました。そして、三日後によみがえりました。 そして言いました。もし、イエスが十字架で私たちの罪の償いのために死に、聖霊をわたし達に与えたと信じるなら、イエスを通して私たちは赦されて、変わることができると。

イエスは言いました。 神のものは神に返しなさい。それをできるようにするためにイエスは来ました。イエスをご自身の主であり救い主として受け入れれば、これは私たちの人生の物語になります。今日、イエスを受け入れませんか。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife



SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg3122jp

★クラス 101
教会員になるためのクラス
9月10日（日）13：30～17：30
https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu

奉仕者募集中！

1．週末礼拝メッセージ翻訳者（数名募集）
1か月半に1度くらいのペース
自宅での作業になります。
英語を日本語へ翻訳します。

2．日本語字幕オペレーター（4名募集）
月1回～各礼拝の時間（特に3時、5時の礼拝募集）の字幕のページをめくる奉仕です。英語を聞いて日本語がどの翻訳部分かわかる程度の英語力が必要です。操作は矢印キーを押すだけの簡単なものです。

連絡先（ひろみ）：
hiromik@tokyobaptist.org